

# OTC市場に関する調査結果 2009

—2008年は再びマイナス成長に、改正薬事法の施行は市場成長の追い風か?—

## 【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて OTC 市場の調査を実施した。

1. 調査期間:2009年6月～9月
2. 調査対象:国内 OTC メーカー
3. 調査方法:当社専門研究員による直接面談、電話・e-mail 等によるヒアリング、ならびに文献調査併用

<OTCとは>

OTCとは、Over The Counter の略で、医師による処方せんを必要とせずに購入できる一般用医薬品を指す。主な薬効として、総合感冒薬、ドリンク剤、ビタミン剤、胃腸薬、解熱鎮痛剤などがある。

## 【調査結果サマリー】

### ◆ 2008年のOTC総市場規模は、前年比1.0%減の7,740億円

2008年のOTC総市場規模(指定医薬部外品含む、メーカー出荷金額ベース)は、前年比1.0%減の7,740億円と推計した。2007年が8年振りのプラス成長となり回復の兆しを見せたものの、僅か1年で再びマイナス成長に転じた。

### ◆ ドリンク剤やミニドリンク剤、ビタミン剤など市場規模の大きい薬効がいずれも減少

薬効別では、市場規模が大きいドリンク剤やミニドリンク剤、ビタミン剤、胃腸薬などがいずれも減少した。ドリンク剤やミニドリンク剤は競争激化の影響で減少であったほか、胃腸薬は需要低迷に歯止めが掛からず市場縮小が続いている。また、ビタミン剤は景気後退の影響を受け、高額品を中心に苦戦を強いられた。さらに、総合感冒薬も競争激化の影響などにより横ばいで推移した。

### ◆ 改正薬事法が施行されるも異業種企業の新規参入は限定的

2009年6月に改正薬事法が完全施行され、コンビニエンスストアやスーパーマーケットなどの異業種企業の新規参入増加が予想されたが、現状では医薬品を取り扱う店舗は限定的で、実験的な展開に止まっている。スイッチ OTC 開発がさらに進展、異業種の新規参入が本格化し、それが市場拡大の要因となって行くのは2011年～2012年頃と推測する。

### ◆ 資料体裁

資料名：「OTC市場の展望と戦略 2009年版」  
 発刊日：2009年9月28日  
 体裁：A4判 274頁  
 定価：115,500円(本体価格110,000円 消費税等5,500円)

### ◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝  
 設立：1958年3月 年間レポート発刊：約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

(株)矢野経済研究所 営業本部 広報・PRグループ TEL: 03-5371-6912 E-mail: [press@yano.co.jp](mailto:press@yano.co.jp)

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。  
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報・PRグループ迄お問合せ下さい。

## 【 調査結果の概要 】

### 1. 市場概況

2008年のOTC総市場規模(指定医薬部外品含む、メーカー出荷金額ベース)は、前年比1.0%減の7,740億円と推計した。2007年が8年振りのプラス成長となり回復の兆しを見せたものの、僅か1年で再びマイナス成長に転じた。鼻炎治療薬や漢方薬が好調に推移した他、禁煙補助剤のパッチ剤や膈カンジタ再発治療薬など、新たなスイッチOTC<sup>注</sup>の発売といったプラス要因が見られた。しかし、一方では競争激化に加え、2008年秋以降の景気後退に伴う消費低迷などのマイナス要因があった。その結果、2008年のOTCは同0.4%減の6,240億円、指定医薬部外品は同3.2%減の1,500億円と減少を余儀なくされた。

注: スイッチOTCとは本来は処方せんの必要な医療用医薬品の成分を転用したOTCを指す。

### 2. 主要5薬効別の動向

#### 2-1. 総合感冒薬

2008年の総合感冒薬市場は、多くの企業から新製品が発売されたものの、競争激化などの影響により市場規模はメーカー出荷金額ベースで前年比横ばいの765億円であった。

#### 2-2. ドリンク剤・ミニドリンク剤

2008年のドリンク剤・ミニドリンク剤市場は、夏場の猛暑などのプラス要因もあったが、価格競争の激化、特定保健用食品などとの競合に加え、2008年秋以降の景気後退に伴う消費低迷などの影響により、同市場規模はメーカー出荷金額ベースで前年比2.5%減の1,950億円とマイナス成長で推移した。そのうちドリンク剤市場は同2.9%減の1,340億円、ミニドリンク剤市場は同1.6%減の610億円であった。

#### 2-3. ビタミン剤

2008年のビタミン剤市場は、2008年秋以降の景気後退に伴う消費低迷の影響を受け、市場規模はメーカー出荷金額ベースで前年比2.9%減の675億円であった。プラス要因としては、①中高年層向け商品の需要増大②女性向け「美肌・美白」市場の拡大③OA機器の長時間使用による眼精疲労・肩こり・腰痛の緩和を目的とした需要増加、などが挙げられる一方、健康食品や特定保健用食品との競合は激しさを増している。

#### 2-4. 胃腸薬

2008年の胃腸薬市場規模は、メーカー出荷金額ベースで前年比2.2%減の440億円であった。健康志向の高まりに伴う暴飲暴食の減少、液体胃腸薬と健康飲料などとの競合激化がマイナス要因として挙げられる。スイッチOTCをはじめとする制酸薬を除き、主に保健薬としての訴求を強める中、ヘビーユーザーを除く顧客層の使用量減少が影響した。

### 3. 将来予測

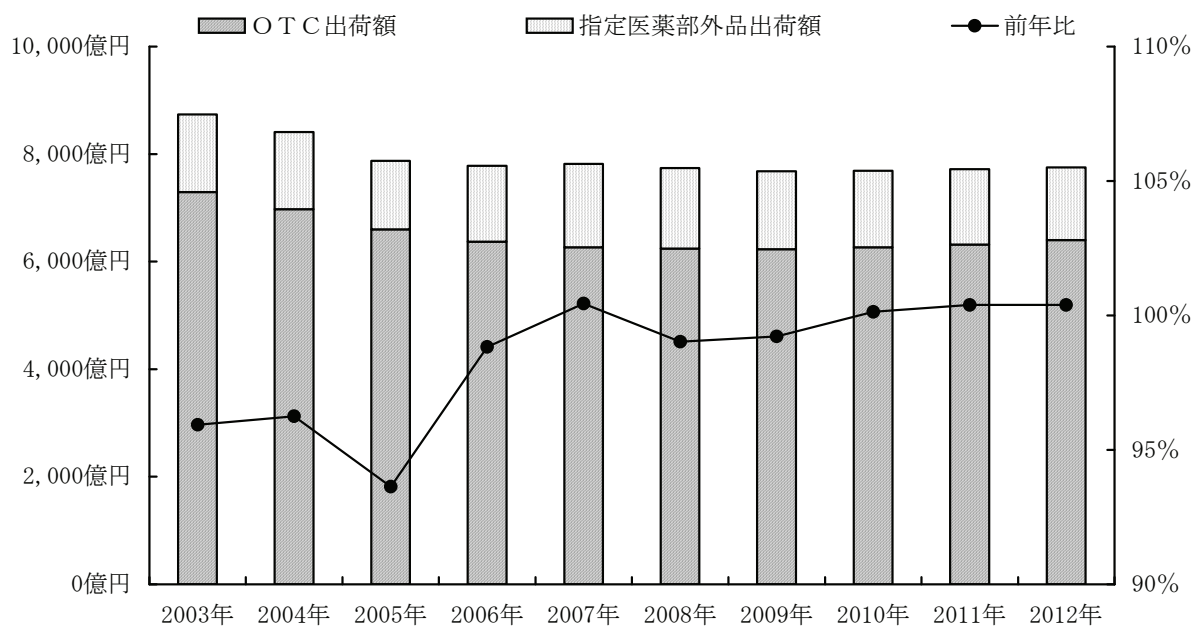
2009年6月に一般用医薬品の販売制度の見直しを柱とする改正薬事法が完全施行された。一般用医薬品は副作用を及ぼすリスクに応じて3分類され、最もリスクが高い第1類医薬品については薬剤師による対面販売が義務付けられたが、品目の大半を占める第2類と第3類医薬品は薬剤師が不在でも新制度の登録販売者<sup>注1</sup>を置けば、販売することが可能となった。

登録販売者制度の新設により、コンビニエンスストアなど異業種の新規参入増加が予想されたが、現状では登録販売者の確保や採算面などの観点から、医薬品を取り扱う店舗は限定的で、実験的な展開に止まっている。OTCを販売する小売店が増加すれば、OTCの認知度向上や需要喚起を促進させ、市場拡大に結びつくものと期待されるが、現時点では改正薬事法の施行に伴う市場拡大を期待することは難しいと考える。

コンビニエンスストアとドラッグストアが提携するなど、将来的には異業種で医薬品を取り扱う店舗の増加が推測される。販売チャネル拡大により店舗数が増えることで出荷数量・金額ともに増加は見込める。しかし、これまでOTCを利用していない新規顧客を開拓し、需要の拡大を図らなければ全体の販売数量増加は見込めないことから、市場拡大に結びつくかどうかは疑問視され、当面はこうした販売チャネル拡大の効果は極めて限定的とみられる。スイッチOTC開発がさらに進展し、異業種の新規参入が本格化し、それが市場拡大の要因となって行くのは2011年～2012年頃と推測する。また、異業種参入の増加に伴い、第2類、第3類を中心に価格競争の進展は避けられず、販売数量の拡大ほどに販売金額が伸びないことも懸念される。

注1: 登録販売者とは、1年以上の販売実務経験者を対象に都道府県が実施する試験に合格した資格取得者を指す。

図表 1. OTC 市場規模推移と予測



(単位: 億円, %)

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
OTC出荷額	7,295	6,974	6,604	6,369	6,267	6,240	6,230	6,270	6,320	6,400
前年比	95.6	95.6	94.7	96.4	98.4	99.6	99.8	100.6	100.8	101.3
指定医薬部外品出荷額	1,441	1,435	1,270	1,413	1,549	1,500	1,450	1,420	1,400	1,350
前年比	97.7	99.6	88.5	111.3	109.6	96.8	96.7	97.9	98.6	96.4
合計出荷額	8,736	8,409	7,874	7,782	7,816	7,740	7,680	7,690	7,720	7,750
前年比	95.9	96.3	93.6	98.8	100.4	99.0	99.2	100.1	100.4	100.4

注 2: メーカー出荷金額ベース

注 3: 2007年まで厚生労働省「薬事工業生産動態統計」より引用、2008年は矢野経済研究所推計値、2009年以降は同予測値

表 2. OTC 主要 5 薬効の市場規模推移と予測

(単位: 億円, %)

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
総合感冒薬 (前年比)	730 (96.1)	755 (103.4)	765 (101.3)	750 (98.0)	765 (102.0)	765 (100.0)	755 (98.7)	760 (100.7)	755 (99.3)	765 (101.3)
ドリンク剤 (前年比)	1,540 (94.8)	1,480 (96.1)	1,440 (97.3)	1,330 (92.4)	1,380 (103.8)	1,340 (97.1)	1,290 (96.3)	1,260 (97.7)	1,240 (98.4)	1,200 (96.8)
ミニドリンク剤 (前年比)	710 (94.0)	680 (95.8)	660 (97.1)	640 (97.0)	620 (96.9)	610 (98.4)	600 (98.4)	600 (100.0)	590 (98.3)	590 (100.0)
ビタミン剤 (前年比)	710 (102.9)	695 (97.9)	695 (100.0)	685 (98.6)	695 (101.5)	675 (97.1)	660 (97.8)	670 (101.5)	680 (101.5)	690 (101.5)
胃腸薬 (前年比)	460 (97.9)	450 (97.8)	455 (101.1)	460 (101.1)	450 (97.8)	440 (97.8)	432 (98.2)	435 (100.7)	435 (100.0)	440 (101.1)

矢野経済研究所推計

注 4: メーカー出荷金額ベース

注 5: 指定医薬部外品を含む

注 6: 2009年以降は予測値